

歴史のまちしるべ原書展

金沢市では、藩政期以降受け継がれてきた由緒ある町名等を継承するため、書家 坂野雄一氏揮毫の歴史のまちしるべ標柱を設置してまいりました。

このたび、市民の皆様にご覧いただきたく、歴史のまちしるべ原書展を開催いたします。

場所 玉川図書館近世史料館 1階 展示室
期間 平成19年6月23日(土)～7月1日(日)
※休館日 6月25日(月)
時間 火～金 午前10時～午後7時
土・日 午前10時～午後5時
入場無料

坂野 雄一

- ・昭和4年 金沢市生まれ。
- ・旧制第四高等学校入学。
- ・書家、篆刻家として活躍。
〈代表作〉 NHK朝のテレビ小説「都の風」題字
司馬遼太郎著「花神」「峠」「城塞」題字
- ・平成2年 泉鏡花記念金沢市民文学賞受賞。
〈受賞作〉 「花落ちて未だ掃かず」
- ・昭和54年～平成13年まで金沢市歴史のまちしるべ標柱の原稿を揮毫。
- ・平成15年逝去。



金沢市 文化財保護課

Tel: 076-220-2906 Fax: 076-224-5046

E-mail: bunkazai@city.kanazawa.ishikawa.jp



歴史のまちしるべ原書展

場所 玉川図書館近世史料館 展示室

期間 平成19年6月23日(土)～平成19年7月1日(日)

歴史のまちしるべ原書展では、城下町金沢の基礎を築いた武士に由来する町名と、職業や職人に由来する町名を中心に展示しております。展示原書は、歴史のまちしるべ標柱の題字を揮毫された書家 坂野雄一氏のご遺族よりご寄附いただき、展示する機会を得たものです。

この展示会で、古くから受け継がれてきた無形の文化遺産である町名・地名等に、より一層のご理解と愛着をもっていただきたいと思います。

展示品一覧

町名	現町名	由来
よこやまちょう 横山町	横山町 材木町	加賀藩の老臣横山氏が、下屋敷のあったこの地に元禄から藩末まで代々家臣とともに住んでいたため、この名がついた。
いばらきちょう 茨木町	茨木町 本多町3丁目	加賀藩士、禄高二千五十石の茨木氏の屋敷があったことから、この名がついた。
さとみちょう 里見町	里見町 広坂1丁目	加賀藩士、禄高千二百石の里見氏の屋敷があったことから、この名がついた。
すぎうらまち 杉浦町	杉浦町(変更なし)	藩政初期、加賀藩士、杉浦仁衛門の預かり足軽の組地であったことからこの名がついた。
ひこそまち 彦三町	彦三町1・2丁目 尾張町2丁目 瓢箪町、安江町	加賀藩の重臣、不破彦三とその家臣が住んでいたため、この名がついた。藩政時代、彦三殿町とも呼ばれていた。
ながとまち 旧長門町	片町2丁目 中央通町	加賀藩士、山崎長門の邸地があったところで、はじめは長門上ヶ地町と呼ばれたが、のち、この名がついた。
あぶらぐるま 油車	油車(変更なし)	藩政初期、油屋与助という油屋が、この地に水車をつくり、灯油などの製造をしていたことからこの名がついた。
しおやまち 旧塩屋町	瓢箪町	藩政の初め、金沢城北側の大手門付近に塩問屋があついていたので、この名がついた。寛永のころ、この地に移った。
かさいちまち 笠市町	笠市町 此花町	藩政時代、この付近に笠問屋がならび市がたち「加賀の菅笠」の名は諸国に広まり、笠市または堀川笠市と呼ばれた。のち、この名がついた。
ひょうたんまち 瓢箪町	瓢箪町(旧塩屋町、旧五宝町、旧岩根町、彦三1・5・6・7番丁、旧横安江町の一部を編入した。)	藩政の中ごろまでこのあたりは塩屋町の一部で、この地に瓢箪をつくる者がいたから、また瓢箪を売る店があったことから、この名がついたといわれる。
みそぐらちょう 旧味噌蔵町	尾張町1丁目 兼六元町 橋場町、大手町	藩政初期に軍用の味噌蔵が建てられていたところから、この名がついたという。
ぞうがねまち 旧象眼町	笠市町 安江町	藩政時代、地子町の一つで、象嵌師が住んでいたことからこの名がついた。すがねまちともぞうがねまちともいった。
おけちょう 旧桶町	彦三町1・2丁目 尾張町2丁目	藩政の初め、藩の御用を勤める桶職人たちが屋敷地を与えられて住んでいたため桶屋町と呼ばれていたが、元禄のころからこの名になった。
いしやしろうじ 旧石屋小路	武蔵町	もと安江町横町と呼ばれていた。藩政初期、藩の御用を勤める石工たちが住んでいたところから、この名がついた。
かなやちょう 旧金屋町	東山2丁目 森山2丁目	もと今の尾山神社の地あたりにあった。藩の初め、銀座役金屋彦四郎らが居住し、金銀貨を鑄造したのでこの名がつけられ、元和の初め、この地に移されたという。金谷町とも書いた。
いたまえまち 旧板前町	天神町2丁目	藩政の初めころ、藩の台所奉行に属する板前足軽組地であったので、この名がついたといわれる。

写真(復活町名より)

「主計町(かずえまち)平成11年10月」「飛梅町(とびうめちょう)平成12年4月」「柿木島(かきのきばたけ)平成15年10月」「六枚町(ろくまいまち)平成16年6月」「並木町(なみきまち)平成17年10月」に復活した。※町名が復活した町は現在まで8町

坂野 雄一

昭和4年（1929年）金沢市生まれ。金沢一中、海軍兵学校予科を経て、旧制第四高等学校入学。中途退学の後、家業の酒造業を継ぐ。

書家・篆刻家として活躍。主な作品にNHK朝のテレビ小説「都の風」題字、書物「蕪村全集」題字、池波正太郎「剣客商売全集」、司馬遼太郎「花神」「峠」「城塞」、高橋治「風の盆恋歌」題字等。

「花落ちて未だ掃かず」で泉鏡花記念金沢市民文学賞受賞。

金沢市の依頼により、昭和54年～平成13年まで「歴史のまちしるべ標柱」題字を揮毫する。

平成15年（2003年）逝去。

ご寄附いただいた「歴史のまちしるべ標柱」題字の揮毫原書

町名	旧助九郎町	すけくろまち	六枚町	ろくまいまち
旧穴水町	千日町	せんにちまち		
油車	旧象眼町	ぞうがねまち	坂名	
旧石浦町	旧宗叔町	そうしゅくちょう	石伐坂	いしきりざか
旧石屋小路	旧大衆免	だいじゅめ	馬坂	うまざか
泉町	高岡町	たかおかまち	歸厚坂	きこうざか
旧板前町	旧鷹匠町	たかじょうまち	木曾坂	きそざか
旧一本松	旧高道町	たかみちまち	紺屋坂	こんやざか
茨木町	旧田丸町	たまるまち	桜坂	さくらざか
旧岩根町	寺町	てらまち	甚右衛門坂	じんえもんざか
旧梅本町	出羽町	でわまち	善光寺坂	ぜんこうじざか
大手町	旧傳馬町	で（て）んままち	大乘寺坂	だいじょうじざか
旧御歩町	旧百々女木町	どどめきちょう	天神坂	てんじんざか
旧桶町	旧長柄町	ながえまち	長良坂	ながらざか
尾張町	長土堀	ながどへ	八坂	はっさか
旧欠原町	旧長門町	ながとまち	蛤坂	はまぐりざか
笠市町	並木町	なみきまち	廣坂	ひろさか
旧鍛冶町	旧成瀬町	なるせまち	嫁坂	よめざか
主計町	旧西町	にしちょう	用水名	
片町	野町	のまち	泉用水	いづみようすい
旧金屋町	旧八幡町	はちまんまち	大野庄用水	おおのしょうようすい
菊川町	旧早道町	はやみちまち	鞍月用水	くらつきようすい
木倉町	彦三町	ひこそまち	辰巳用水	たつみようすい
旧木町	旧備中町	びっちゅうまち	中村高島用水	なかむらたかばたけようすい
旧九枚町	瓢箪町	ひょうたんまち	字地名	
旧玄蕃町	旧火除町	ひよけまち	懸作	かけづくり
材木町	旧古寺町	ふるでらまち	賢坂辻	けんさかつじ
旧榮町	旧古道	ふるみち	関助馬場	せきすけばば
旧桜島	旧寶船路町	ほうせんじまち	堂形前	どうがたまえ
里見町	旧母衣町	ほろまち	堀川揚場	ほりかわあげば
三社町	本多町	ほんだまち	升形	ますがた
旧地黄煎町	旧又五郎町	またごろうちょう		
旧塩川町	旧水車町	みずぐるままち		
旧塩屋町	旧味噌蔵町	みそぐらちょう		
旧品川町	旧三構	みつがまえ		
旧主馬町	旧元車町	もとぐるままち		
白菊町	旧森下町	もりもとまち		
旧白山町	横山町	よこやまちょう		
杉浦町	旧六斗林	ろくとばやし		